

早稲田大学日本語教育研究センター  
CENTER FOR JAPANESE LANGUAGE  
WASEDA UNIVERSITY

第 26 号

2009年1月

日本語センターニュース  
CJL NEWS



# 目次

VOL. 26  
2009  
January

# Contents

1 . 新所長のことば	1
日本語を学ぶということ	所長 蒲谷 宏
2 . 就任のあいさつ	2
日本語が上手になるためのヒント	教務主任 池上 摩希子
3 . 私と研究	3
教室文化研究	客員講師 塩谷 奈緒子
4 . 課外活動	4
【箱根旅行】箱根旅行で出会ったこと	鄭 丞浩
【箱根旅行】箱根旅行の感想	アンダーソン クローディア ニコラス
【もちつき大会】楽しい留学生活の体験	徐 丹
【もちつき大会】もちつきの感想	クマル クندان
5 . 修了生のことば	8
一年間の山登り	イゲ ライアン ヒロアキ
わたしの日本	ヴェシェーラ フランチェスコ
6 . 人物往来	10
【新任の言葉】	助手 市嶋 典子
	助手 田中 里奈
	事務長 鈴木 勉
【退任の言葉】	戸山総合事務センター学務担当課長 久保田 学
	事務スタッフ 上田 香織
7 . お知らせ	13



# 新所長のことは

## 日本語を学ぶということ

所長 蒲谷 宏



日本語教育研究センターは、2008年4月に創立20周年を迎えました。日本語センターで日本語を学ぶ人たちも年々増加し、現在1,300名を超す学習者数となっています。日本語学習者が増えること自体は、日本語教育に携わる者として喜ばしいことなのですが、多くの日本語学習者の期待に応えるためにも、今後さらに授業の質を高めていく必要があることは言うまでもありません。学習者にとっても、教師にとっても、楽しく、充実した授業を目指していきたいと考えています。

ところで、やや根本的な話になりますが、「日本語を学ぶ」というとき、それは何を意味しているのでしょうか。学ぶ対象となる日本語というのは何なのでしょう。言語はよく道具に例えられますが、道具が物として手に取って扱えるものであるのに比べると、日本語自体はとらえどころのないものであって、実はこれが日本語だと指し示せるものはないのです。

私は、日本語は、教科書の中や辞典の中にあるものではなくて、実際に表現し、理解している、その行為において成立するものなのだと考えています。日本語というのは、単なる道具ではなく、日本語で話し、聞き、書き、読む、そのときに成立するものなのです。「おはようございます。」と挨拶したとき、そこに日本語が成立しているのであって、「おはようございます」という日本語がどこかに存在してそれを使っているというようには考えません。例えば、私が書いたこの文章は、たしかにここに存在しているようですが、実は、私が書いている時に、そして、この文章を読んでくださっているその時に初めて日本語として成立しているのです。

もちろん、日本語で表現したり、理解したりするためには、文法を知る必要もあるでしょうし、いろいろな言葉を覚えたり、漢字や発音などを練習することも重要になりますが、それらはすべて日本語で表現し、理解する、その人自身の中にあると言えるのです。ですから、日本語を学ぶということは、自分とは別に、自分の外にある日本語を勉強することではなく、また、日本語という道具を使うことでもなく、コミュニケーションすること自体を学ぶということなのです。

日本語で表現や理解をする人がだれであっても、どこの国の人であっても、それ自体は問題ではありません。日本語で表現し、理解している人としてすべては平等なのです。日本語は、たしかに日本人のコミュニケーションのツールとなっているわけですが、日本人だけのものではなく、日本語でコミュニケーションすること自体が日本語なのであり、そうすることで初めて日本語が成立するわけです。

このように考えると、だれかと日本語でコミュニケーションするときに、日本語が学んでいるということになります。そのためにも、いろいろな人との出会いが大切になります。それは日本人だけでなく、日本語でコミュニケーションをしている人 それを「日本語人」と呼ぶなら すべての日本語人との出会いです。大切なのは、日本語人とのコミュニケーションであって、そのための力を身につけることが、日本語を学ぶことにつながっていると私は考えています。

どうぞ日本語人としてのコミュニケーションを楽しんでください。それこそが日本語を学ぶことなのだと思います。

# 就任のあいさつ

## 日本語が上手になるためのヒント

教務主任 池上 摩希子



みなさん、こんにちは。2008年10月から日本語教育研究センターの教務主任をつとめている池上です。どうぞよろしくお願ひします。

早稲田大学での日本語学習はいかがですか。自分の目的に合った学習を進めることができているでしょうか。「学問に王道なし」と言われるように、日本語が上手になるためには、もちろん、きちんと勉強をすることが必要です。でも、実は、特に日本に来て勉強している場合、日本語が上手になるためには、次の三つのものをうまく使ってみるといいと私は思っています。

まず一つ目は日本語の教室です。教室をうまく使うということは、教室にいる先生、友だち、ボランティアの人たちをもうまく使うということになります。先生は様々なことを教えてくれるかもしれませんが、それを待つだけでなく、積極的に質問したり時には自分の考えを「提案」したりしてみましょう。隣に座っている友だちも同様です。教えあったり相談したり、思わぬ刺激をもらえることがあります。そして、早稲田の日本語センターには、学生ボランティアが入っている教室が少なくありません。学生ボランティアは先生とはまた違った立場でみなさんの学習を手伝ってくれます。「うまく手伝ってもらおう」ために、みなさん自身が今より一歩前に出て、自分の日本語でボランティアとコミュニケーションをとる必要があります。

二つ目、早稲田大学という大学を使うことです。せっかく早稲田で学んでいるのですから、日本語の教室以外にラウンジや図書館、PCルーム等にも出かけていきましょう。大学には大勢の学生がいますから、日本人でも留学生でも、友だちができるといいですね。サークル活動を通して、友だちができたという話もよく聞きます。それから、日本語の先生ではない先生とも知り合いになり、興味のある研究の話や趣味の話、また、修了後の進路について話を深めたということも聞きました。大学にはきっと、豊かな出会いがまだまだあるにちがひありません。

三つ目に日本という環境を考えてみましょう。「日本にいけば日本語をたくさん使って、日本語がどんどん上手になると思っていた」と話してくれた学生がいました。「～と思っていた」でわかるように、この予想は当たっていませんでした。確かに、日本には日本語があふれています。音声でも文字でも、毎日、シャワーのように浴びることができます。しかし、日本語が上手になるためには、環境に任せていないで環境を積極的に使うことが重要です。日本語のシャワーを浴びているだけでは、日本語をたくさん使うことにはなりません。日本語の練習をするというより、自分の考えを日本語で表現するとしてみるといいと思います。このとき、何のために、だれに対して表現するのでしょうか。自分のために、自分に対して表現することも必要ですが、表現したことを聞いたり読んだりした相手から、反応が得られることもあるはずですよ。こうしたやりとりを経て自分自身の日本語が出来上がっていきます。やりとりができる環境を自分で積極的に整えて、やりとりを重ねていくことが大切です。教室や大学よりも広くて多様な環境が、きっとみなさんを待っています。

これらの三つをうまく使って、自分の日本語を自分のものにしていくください。みなさんの留学生活が充実したものととなりますことを、心より願っています。



# 私と研究

## 教室文化研究

客員講師 塩谷 奈緒子



みなさんは、日々、いろいろな教室（クラス）で学んでいると思います。ですから、一口に「教室」と言っても世の中にはさまざまな種類の教室が存在すること、また、それぞれの教室によって教室の雰囲気はかなり異なることはすでに知っていると思います。

それでは、それぞれの教室はなぜそんなに違うのでしょうか。そうした違いはなぜ起こるのでしょうか。また、そもそも、教室とはどんな場所で、それはどのように作られるのでしょうか。

こうした問題について考え、その考えをもとに教室実践を行っていくのが、私の専門である「教室文化」の研究です。

教室文化研究では、まず、教育を動的な文化として、また、教室を可変的な文化的システムとして捉えます。そして、それぞれの教室にはそれぞれの文化があると考え、一つ一つの教室を文化の単位とみなし、それぞれの教室活動データ（主に、教室活動の録音記録を文字化したもの）を、その教育目標や文化的媒介（教室内に配置されている物・人や、教室内で行われる相互行為）といった観点から分析していきます。

私は、日本語教室活動を対象として教室文化の研究を行っていますが、日本語教室を分析すればするほど、教室はダイナミックで生きた社会であると感じます。

日本語のクラスには、たいてい、教師が設定した教育目標があり、それぞれの教室には、それぞれの教育目標を達成するためのさまざまな媒介（物・人）が用意されます。しかし、教室文化はこれだけでは決定されません。日本語教室の教室文化は、実際には、さまざまな背景や価値観を持つ学習者たちが日本語教室に集まり、教室活動に参加し、それぞれの言語や思考や世界を他者との間で再構成していく過程で作り出され、作りかえられていきます。

教室文化は動的なもので、世の中には二つとして同じ教室文化はありませんし、たとえ同じ内容の授業を行っても、学習者の顔触れや教師が変われば教室文化は変化します。

つまり、教室文化とは、さまざまな媒介と学習者、学習者と教師、教師と媒介とが相互作用し、その都度作り出されるもので、教室とは、そうした物や人の間、さまざまな学習観や教室観が交錯する間に浮かび上がる、複雑で豊かな社会であると言えます。

このように考えると、いつも見慣れた日本語教室が、少し違って見えてきませんか。

これからも、さまざまな日本語教室の教室文化分析を通し、さまざまな教師や学習者たちとさまざまな教室文化を作っていきたいと思っています。



# 課外活動

## 箱根旅行



## 箱根旅行で出会ったこと

鄭 丞浩 (韓国)

ジョン スンホ

秋晴れに恵まれた21日。日本に来て初めての旅行らしい旅行。まだ、私は本当に日本らしい所に行ったことがない。だから、今回の旅行を凄く期待していた。バスに乗って約1時間あまり走ったか、車窓の向こうから日本の霊山、富士山が見えてきた。富士山は見たものの、まだまだ写真のような感じがして実感することができなかった。富士山はバスの左右をいったりきたりしながらどんどん近付いてきた。そして、バスが止まって降りて富士山を見たら、頭の中に一言だけが思い浮かんだ。美しい。美しい。この言葉にこれ以上似合うものはないと思った。そして気付いてみると、私はシャッターを押し続けていた。この自然の美しさをどうしてもずっと残して置きたかったからだ。日本人は今までこんなに美しいものを見てきたのか。山袖から山頂まで伸びている湾曲な曲線が何よりも安らかで美しかった。なるほど、だから富士山は女性なんだと思った。雄大だけど、それは威圧的なものではない。それが富士山だった。気を取られてぼうっとしていたら、もう出発の時間になってしまった。もっと眺めていたかったが、その寂しさを残しながら私はその場を離れた。

そしてまたバスは走ってアサヒビール工場に着いた。神奈川工場は本当に自然と共にあった。見学を終えて外に出た私は、夕日のため色が変わった薄い黄色いと赤く燃えているような紅葉に目が引かれた。ここで私が見たのは人間がどれだけ自然との共存に努力しているのかだった。短かったが強烈な印象を受けた。そして、芦ノ湖を経てやっと箱根温泉に着いた。山の中の静かな露天風呂で私は、空を見上げながら今日の富士山やビール工場、そして芦ノ湖を思い返している間に人生初めての流れ星を見た。刹那のような瞬間だったがそれを確かに覚えている。願いを3回繰り返して祈るのはさすがに無理だった。流れ星にお願いすることなどなかった。今のままで充分だ。富士山を見て、自然と人間の共存を感じて、そして今自然の中に私はいる。おまけに空には星が輝いている。横にはここ日本に来て会えたいい友達がいる。これ以上のことを願うのは贅沢だ。久しぶりに満足感と幸せを感じることができた。

その夜、私は森の近くまで行った。そこは星を観るために邪魔になる光がなくて、空がよく見えるはずだった。坂を上ってみると、もう感心することはないと思っていたのにまた感心してしまった。そこには星が相変わらず残っていた。子供の頃見ていた星と同じだった。いつも星を見たいとは思っていたけれど、夜でもとても明るい今では、それが不可能だと思っていた。星を見上げた夜、幼い頃の自分に会えたような気がした。星を見ながら誓ったこと、好きな星を探したこと、今は諦めていた夢のこと。韓国の詩にはこのような詩がある。『星一つに追憶と星一つに恋と星一つに侘しさと星一つに憧れと星一つに詩と星一つにお母さん、お母さん... (中略)』という詩を口ずさんでみた。ふと家族や友達はみんな元気にすごしているのだろうかと思った。自分と久しぶりに向き合った夜だった。こうして私の箱根旅行の一日が終わった。

箱根旅行を通じて私が見たものは日本の自然、自然と人間の共存、そして自然の中にいる私だった。日本の自然は日本そのもので、それを見て感じてきた日本人を育てていた。私を感じたこと、それを日本人は見てきたのだから少しは日本を感じることができたと思う。これからの楽しみはもっと日本を感じる。そしていつか帰る韓国でも感じてみたいと思っている。



## 箱根旅行の感想

アンダーソン クローディア ニコラス (イギリス)  
*ANDERSON, Claudia Nicholas*

筆者は右側



箱根旅行に行くことにした一番の理由は、一般的な東京の生活から離れることでした。東京と全然違うところに行ったり、美しい景色を眺めたり、田舎に行ったりできたので、箱根から帰ったときに、満足しました。

最初に、富士山を見ました。富士山が好きな人が多いので、富士山を見ることを楽しみにしていました。天気がとてもよかったので、富士山がはっきり見えて、本当に感動しました。

紅葉も思ったより綺麗でした。イギリスの秋も、葉の色が変わって枝から落ちますが、日本の葉の色は、イギリスよりも濃いと思います。

大涌谷に行き、ここでは黒卵が有名なので、実際に食べて、日本らしい体験ができました。それから、彫刻の森美術館に行きました。屋外の美術館には行ったことがないので、想像力が満ちあふれている彫刻を見ることは新しい体験でした。

このような、いろいろな新しい体験をして、私が知らなかった日本を発見したと感じています。箱根に行ってよかった！



## もちつき大会 たいかい

## 楽しい留学生活の体験 たの りゅうがくせいかつ たいけん

徐 丹 (中国)

ジョ タン



12月4日はとてもいい天気だった。2限の授業が  
終わってから、クラスメートのみんなと急いで  
大隈庭園に行った。お相撲さんと一緒に餅つきをす  
るのを楽しみにしていたからだ。

その日はとても秋らしい一日だった。庭園は紅葉が  
いっぱいとてもきれいだった。もう人がたくさん  
集まっていた。国ではいつも日本の餅がおいしいと  
聞いていたことはあったけど、日本の餅を食べたの

は初めてだった。作りたての餅がとても柔らかくて、おいしかった。甘いのもおいしかったし、ちょっと  
塩辛いのもおいしかった。あまりのおいしさで、友達が2回もおかわりをしていた。私たちはお相撲さん  
と一緒に餅つきをして、とても楽しかった。

普段の勉強はちょっと忙しいけど、早稲田大学には様々な課外活動があるので、毎日楽しく過ごしてい  
る。おかげで、私はちっともホームシックにならなかった。早稲田大学に留学できて本当によかったと思  
う。世界各国の学生さんと知り合って、友達になって、そして困った時はお互いに助け合っていて、幸せ  
だと思う。

早稲田大学での一年間の留学はたくさんの体験ができるから、きっとすばらしい思い出になる。  
世界各国の学生たちと仲良くなりたいと思う。

早稲田と一緒に楽しい留学生活を送りましょう~~(^^)



## もちつきの感想

クマル クندان (インド)

*Kumar Kundan*



私はインドから来たクندانと申します。日本に来てからほぼ3カ月経ちます。今、早稲田大学で日本語を習っています。12月4日に「もちつき」のイベントが早稲田大学の大隈庭園で行われました。その日は授業が30分前に終わり、私たちはみんなで大隈庭園に行きました。

3カ月前から早稲田大学で勉強しているのに、大隈庭園へ行ったことはありませんでした。大隈庭園は緑が多く、とてもきれいです。そこでは大勢の留学生が集まって、お

もちをついているのを見ていました。私も暫くそれを見ていました。その後、おもちを配る列に並んで、私もおもちをもらって食べました。自分の国では、おもちを食べたことがなかったので、初めて特別な味のお菓子!?を食べることができて大変良かったです。

それから、おもちつきのところに行って、実際におもちをついてみました。そんな経験は初めてでした。近ごろは、化学的なもので作られた食べ物が多くなっています。しかし、自然の米から作ったおもちは何とも言えないほどおいしく、このような食べ物を広める必要はあると思います。

おもちをつくためにお相撲さんが何人が招待され、私たちは彼らと話せて、とてもうれしかったです。自分の国にいた時は、いつもテレビでしか相撲を観ることができませんでした。その時は、直接お相撲さんたちと話せるとは夢にも思えないことでした。私もお相撲さんたちと話したり、写真を撮ったりして、楽しく時間を過ごしました。

帰国した後は、自分の国の両親と友達に、このイベントについて沢山話したいと思います。



# 修了生のことば

## 一年間の山登り

イゲ ライアン ヒロアキ (アメリカ)

IGE, Ryan Hiroaki



「登れるわけないじゃん、これ」と、不安のあまりに思わず声に出してしまう。目の前には、雄大にそびえる富士山。首を伸ばしても、山の頂が見えない。勇気を奮い起こし、リュックを背負って山道へと足を踏み出す。

そんな不安な気持ちを感じたのは、実は日本に来てから2回目だった。着いたばかりの頃も、友達ができるだろうか、日本語が上達するだろうか、そう思いながら、アリの巣のような東京の街に出た。

富士山の八合目に近づいてきている。空気が薄くなったり、寒さと同時に霧が深まったりし、一歩、一歩よるけながら更に険しくなってきた山腹を進んでゆく。小雨がぱらついている。

そういえば、今年は雨が多かったな。6月は、梅雨にぴったり合う日々が続いた。高速度の聴解練習、1,000回書いても覚えられない漢字、どもりながら話す発表。カルチャー・ショックや偏見。それでも私たちは、周りの誰かと手を繋ぎ、前へ立ち向かった。

朝5時半の頂上。一条、そして二条、そして三条の光線が黒い雲を切り裂く。ピンクにオレンジ、紫に赤、見たことのない色の組合せが暗闇を追い出す。そんなキャンパスに太陽自身が眩しい顔を見せてくれる。ここまでやっとこられたという達成感とともに、言葉では表せない美しさへの感動が心に溢れている。身を切るくらい寒い寒さも、深い霧もどんどん消えてゆく。

そこで、ここまでの留学の道のりを思い出した。途中で何回も諦めようと思ったが、すぐ側にいる別科の友達の良い挨拶や笑顔と、優しい励ましの言葉のおかげで、「よっし、今日も頑張ろう!」というやる気が湧いた。悩みを聞いてくださった先生方もいた。日本で出逢った大切な、大切な人々への感謝の気持ちでいっぱいだった。

日の出から約2時間。太陽がどんどん昇ってゆき、照らされる雲が金色の川のようにゆっくりと流れていく。そんな景色を見ると、傷だらけだった心が和む。そろそろ帰ろうか。

修了という分岐に立っている今から、別科生は皆、人それぞれの道を歩いていく。可能性がどんなに低くても、いつかどこかで、皆とまた会えることを信じ続けるつもりだ。そして、あの凍えそうな朝に見た御来光も、早稲田で出逢った大切な友達のことも、先生方の親切さも、この一年間の思い出を一生大事にしたい。



## わたしの日本

ヴェシェーラ フランチェスコ(イタリア)

*VESCERA, Francesco*



2008年の春、早稲田大学に入った。別科生として、日本語能力を上げることを目標にして、習うことに大変喜びを感じ、もっと勉強しようと思った。早稲田の先生もそう期待していると思う。そして、別科コースの授業がすすむにつれて日本語が話せるようになった。クラスの中ばかりではなく、構内でも、東京でも、他のところでも、日本語を使って通じるようになった。

もうすぐ帰国する日が近くなって感じていることは、日本の全てを知って、その文化や習慣がわかるようになるには一年間では足りない。わたしが一年間ここにおいて、文化遺産、歴史や美術、侘び寂びの美感、日本の四季の移り変わりを感じ、人々の親切心など、それこそわたしにとっての日本だった。忘れることができない。

日本語センターの事務スタッフと先生と日研生に心から感謝を言いたい。言葉では表わせない。また、心から歓迎してくれた寮長と寮母の方々ありがとうございます。

最後に一番言いたいことは、東南アジアの友だちに、「一生忘れない。これからずっとわたしの心の中にいる。さよならはいらない。」



### 修了生のみなさんへ

修了おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

「早稲田大学別科日本語専修課程」はいかがでしたか？

早稲田大学の留学生として様々な経験を重ねて、いろいろな課題を乗り越えたみなさんの

日本語力は、飛躍的に向上していると思います。人間としても一回り大きくなっているでしょう。

早稲田大学で得たことを、明日からの新しい生活にいかしてください。

みなさんのご活躍を楽しみにしています。

# 人物往来

## 新任の言葉

新任

助手 市嶋 典子



去年の10月から助手に就任した市嶋典子と申します。どうぞよろしく申し上げます。

私は、以前、シリアのダマスカス大学で日本語を教えていました。赴任前に、日本で約3ヶ月、アラビア語の研修を受けました。しかし、ダマスカス大学では、ほとんどのことは、日本語と簡単な英語で事足りました。そのせいか、私のアラビア語は、あまり上達しませんでした。「はじめまして、市嶋です。日本から来ました。ダマスカス大学の日本語教師です」という自己紹介だけは、誰よりも上手に言えるようにはなりませんが...

ひょんなことから、あるパーティーの席で、欧米やアジアからの留学生、アラブ諸国の学生と話す機会がありました。皆に共通の言語がアラビア語ということで、自然とアラビア語で話しが進んでいきました。話は、自己紹介から始まって、「なぜアラビア語を学んでいるのか」という話題に展開していきました。それぞれが、自分の専門とアラビア語との関係を生き生きと語ってくれました。一方、私は、言いたいことの半分も伝えられず、もどかしい思いをしました。この経験がきっかけとなり、「自分の意見をアラビア語で伝えられるようになりたい」という意欲が高まっていきました。それから、自分がダマスカスに来たきっかけや、仕事や生活での苦労ややりがい、といったような、自分自身の経験や考えをアラビア語で伝えるようにしました。このようにして、やっと、形だけの自己紹介から卒業することができました。そして、少しずつですが、アラビア語でのコミュニケーションを楽しむことができるようになりました。

残念ながら、今はアラビア語を使う機会がなく、すっかり忘れてしまいました。でも、ダマスカスでの経験や考えたことは、今でも私の心の片隅に存在し続けています。

新任

助手 田中 里奈



みなさん、こんにちは。2008年10月に日本語教育研究センターの助手として着任した、田中里奈と申します。大学生のときは国際関係学を専攻していましたが、国と国との関係に限るよりも、国境に縛られずに、もっとさまざまな人に直接出会って、お互いの世界を分かり合っていくような仕事がしたいと思ったのがきっかけで、日本語教師を目指すようになりました。

私は助手になる前、3年半の間、韓国の釜山で日本語を教えていました。長期的な海外での生活は、高校時代に行ったフィンランド留学に続いて2回目だったので、強いカルチャーショックを受けたり、ホームシックにかかったりするようなことはありませんでした。しかし、現地のことばが全く話せなかっただけでなく、初めての就職、初めての一人暮らしだったこともあり、1年目はとても大変でした。日本語を教えるという仕事と両立させながら、プライベートを充実させていくために、どうやって韓国語を学ぼうか、どうやって韓国社会で人間関係を広げていこうか、いろいろと試行錯誤を繰り返しました。韓国語のクラスに通うだけでなく、料理教室に通ってみたり、社会人サークルに入ってみたりして、とにかく現地にいる人たちと出会い、個人的な付き合いに発展するよう努力しました。

みなさんも、今、日本語や専門分野の勉強、慣れない日本での生活、人間関係など、いろいろな面で試行錯誤しているのではないかと思います。何か困ったことがあったら、ぜひ気軽に声をかけてください。これから2年間、助手として、みなさんの日本語の勉強や留学生活などをサポートしていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

新任

事務長 鈴木 勉



事務長の鈴木です。昨年の12月1日に赴任しました。事務所の一番奥に偉そうに座っていますが、実はまだ右も左もわかっていないので、質問されても答えられないことばかりです。もちろん、私以外のスタッフはそんなことはないで、何でも聞いてくださいね。

私は早稲田大学を卒業して、そのまま早稲田大学に就職しましたので、かれこれ四半世紀以上、早稲田大学に通っていることとなります。学生時代から歌が好きで、今はもっぱらカラオケです。最近では12歳と10歳になる子どもたちから教えられることも多くなりました。

我が家の最近のヒット曲はGreeeeeenの「キセキ」です。

早稲田大学の歌といえば、何とんでも「校歌」ですね。別科修了式でも歌われます。「都の西北」で始まるフレーズはよく知られていますが、3番まであるのはご存知ですか？それから応援歌の「紺碧の空」。早慶戦に行ったことのある方は肩を組んで歌ったことと思います。そして、早稲田大学の歌で私が一番好きな歌は「早稲田の栄光」です。知らない人も多いかな。是非、早稲田にいる間に覚えてほしい歌のひとつです。

それぞれの国で異なる「軌跡」を歩んできた皆さんが、早稲田の社で出会う「奇跡」を喜び、ひとりひとりがきらめく光を放つ「輝石」となって、早稲田を巣立って行けるよう、事務所一体となってお手伝いしたいと思います。

最後に私のお気に入りの校歌のフレーズから

“ 集まり散じて 人は変われど 仰ぐは同じき 理想の光 ”

## 退任の言葉

退任

現所属：戸山総合事務センター学務担当課長 久保田 学

在任中、印象に残った数々の出来事。「何気なく日本語を勉強した日本人と違って僕は体系的に日本語を勉強しているからね」と元留学生に自慢されたこと(そう言われてみればきちんと日本語を勉強していないことを実感!)、世界各国から本学に訪れる、各国で日本語教育を支える人の多くがじつは日本語センターOBだとわかったこと(世界に発信!)、日本語教育が大学の枠を越えて小中学校や地域、医療・介護の現場に拡がり始めていることを実感できたこと(マスコミにも国会にも一過性のネタじゃない!)と主張しなければ)、単に尊敬、謙譲などの分類からではなくその人を取り巻く場や相手に即した「自然な敬語」を教えるための教授法が数年後の完成を目指して研究されていると知ったこと(これが完成すると日本人よりも日本語の上手な外国人が確実に増えます!)、ETP研修生が「日本語は初心者だけど言葉使いが丁寧で敬語も使える」とインターンシップ先様からお褒めいただいたこと(短期間に単なる詰め込みではない「使える日本語を教える」というじつは難しい教育プログラムをこなしています!)、日本語センターOBで現在は偉大な詩人であるアーサー・ピナードさんによる、とつとつと語る独特の語り口の中に巧みに構成された素晴らしい日本語のご講演を拝聴することができたこと(本当に最高でした!)。これからも益々発展する日本語教育研究センターを応援しています。



筆者は右端



2008年7月に20年間職員として勤めた早稲田大学を退職いたしました。20年のうち日本語センターには7年間在職。この間、多くの留学生のみなさんに出会うことができました。この経験を大切な宝物として、心に大切にしまって今後の人生に活かしていきたいと考えています。

日本語センター、早稲田大学、そして日本に留学されたみなさんへのメッセージとして、私が大切に考えている3つのことをお伝えし、退職のことばとさせていただきます。

1つは、日本語センターで学ぶ中で人と人とのつながりを大切にし、多様性と寛容性を培っていただきたいということです。そのためには、共に学ぶ国籍、宗教、思想の異なる友達を積極的に作ってたくさん意見を交換してください。意識をして努力をしないと同じ国籍の人と過ごすことが多くなってしまい、多種多様なものを知るチャンスを逃すことになりかねません。様々な国のお友達を作り理解し合うチャンスです。このチャンス!を大切にしていいただければと思います。

2つには、早稲田大学の「進取の精神、学の独立」という思想の意を一度考えていただきたいということです。「進取」とは「従来の慣習にこだわらず自ら進んで物事に取り組むこと」、「学の独立」は、「在野精神」「反骨の精神」を生み出し時勢や権力に左右されない強い己を作る基礎となるのではないのでしょうか。早稲田で学んだみなさんには、こうした早稲田哲学を心に刻み今後活躍していただく際の力としていただければと思います。

3つには、「日本国憲法」に触れていただきたいということです。日本に留学されたのですから日本の最高法規である「憲法」を是非読んでみてください。日本国憲法は別名「平和憲法」といいます。英訳されたもの、漢字にルビをふったものなど様々な日本国憲法が書店には並んでいます。ここに記載されている人類の平和への想いは、未来永劫、国は変われど共通するものだと思っています。ここに日本国憲法前文をご紹介します。表現は少し難しいですが読んで意味を考えていただければとても嬉しいです。

「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立とうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。(日本国憲法前文より)」

何事においても理想は高く、理想であってよいと思います。理想を現実に合わせては理想の存在はないのですから。また、平和を考える上で、日本にいる間に一度是非、ヒロシマ、ナガサキを訪ねてください。ここでは、歴史的現実から痛烈に多くのことを考えさせてくれるでしょう。

「にほんご」を学びつつ、どうぞ、その先にある大切なものを、「早稲田そして日本」で見つけ出してくださることを心より祈っています。

学生時代より数えると24年間通った早稲田の杜。心の故郷に他なりません。最も好きだった早稲田の風景は、冬の寒く空気の澄んだ夜に見上げる大隈講堂の光でした。校歌に「集まり散じて人は変われど仰ぐは同じき理想の光」というフレーズがあります。大隈講堂の光がみなさまにとって永遠の「理想の光」となりますように。

## 在学中のみなさんへ

### 春休み期間(2/5～3/31)の開室・開館時間

	月～土	休館・閉室日
22号館4F事務所	9:00～17:00(12:30～13:30は閉室)	・日曜日、祝日
22号館3F学生読書室	閉室	
中央図書館	月曜～土曜 9:00～22:00(入館21:50まで) 日曜 10:00～17:00(入館16:50まで) 2/12～2/21は、入試のためサービス時間が通常と異なります。	・祝日

## 修了生のみなさんへ

### 修了後の成績証明書・修了証明書等の申請

修了後に成績証明書・修了証明書等を申請したい場合、下記の方法で申し込むことができます。  
(証明書代 2009/4/1以降 1枚 300円)

#### 申込み方法

##### [本人が日本語センター事務所で申し込む場合]

1. 本人の身分証明書(パスポート・外国人登録証等)
2. 証明書料金(現金)

##### [代理人が日本語センター事務所で申し込む場合]

1. 本人の委任状と身分証明書のコピー
2. 代理人の身分証明書
3. 必要な証明書の名称・枚数・料金(現金)

##### [本人が郵送で申込み、日本国内へ返信する場合] 以下をすべて郵送してください。

1. 「申込用紙」[pdf](氏名、ローマ字氏名、生年月日、住所、電話番号、E-mailアドレス、卒業年月、学籍番号、必要な証明書の名称、枚数) HPからダウンロードしてください。
2. 「本人の身分証明書(パスポート・外国人登録証)のコピー」
3. 「証明書費用(定額小為替)」日本国内の郵便局で「定額小為替(300円×証明書枚数)」を購入してください。
4. 「郵送料(切手)」 日本国内の郵便局で「切手」を購入

##### [本人が郵送で申込み、海外へEMSで返信する場合] 以下をすべて郵送してください。

1. 「申込用紙」[pdf](氏名、ローマ字氏名、生年月日、住所、電話番号、E-mailアドレス、卒業年月、学籍番号(不明のときは不要、必要な証明書の名称、枚数) HPからダウンロードしてください。
2. 「本人の身分証明書(パスポート・外国人登録証)のコピー」
3. 「IRC(International Reply Coupon)」「証明書費用」と「EMS郵送料」の合計をまとめて購入してください。

**宛先**  
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-7-14  
早稲田大学日本語教育研究センター「証明書」係



詳細につきましては下記のホームページを参照してください。  
<http://www.waseda.jp/cjl/html/certificate.html>

日本語センターニュース 第26号  
2009年1月23日発行

発行

早稲田大学日本語教育研究センター  
CENTER FOR JAPANESE LANGUAGE  
WASEDA UNIVERSITY

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-7-14  
1-7-14, Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050  
TEL : 03-5273-3142 FAX : 03-3203-7672  
E-mail : [cjl@list.waseda.jp](mailto:cjl@list.waseda.jp)  
URL : <http://www.waseda.jp/cjl>